

かなん タウンミーティング2014
～河南町の安全・安心 「消防広域化」～

河内地域（6月1日）

第2部 意見交換会（○住民の発言 ●行政の発言）

- これまでの説明でメリットは強調しているが、震災や土砂災害等が発生した場合どのように対処できるか協議しておく必要があり、今後、河南町が発言力をつけていくためには十分な応援が必要である。
- 災害に対する備えは必要である。災害が発生すると町長を本部長とする災害対策本部を河南町が立ち上げ、消防署・消防団・自主防災組織・各地区の協力で住民の皆さんの安全安心を守っていきたいと考えています。

- 災害はいつ発生するか分からないので、消防団や自主防災組織の方が仕事に出ている間の対策も考えておく必要がある。救急に関しても将来を見据えた協議が必要である。
- 将来どのようになって行くかも含め、今後、富田林市と協議をしていきます。

- 富田林市がすでに事務委託をしている町村のメリットとデメリットを説明してほしい。
- 消防力や財政面でのメリットを説明しましたが、小さなデメリットはあると思うが、大きなデメリットはないと考えています。また、既に事務委託されている町村からこの委託が悪かったよということとは聞いていません。

- 最近救急車の出動件数が多いようですが、河南町方面の救急車が富田林市に出動している場合はどうなりますか。
- 広域化後は3市町村において6台の救急車が出動可能となります。昨年の富田林市消防本部の救急出動件数は、太子町と千早赤阪村を含めて6466件です。救急車の台数に関しては、富田林市消防本部の管轄する人口は約15万人で6台が稼働することになります。他の人口約26万人の一部事務組合で6台、約27万人の市で6台、人口約17万人の一部事務組合で5台の救急車稼働しておりますので、広域化後の富田林市消防本部としても可能であると思います。

- 大きな災害が発生した時、広域というのは良い所と部分的なところで悪い面が出る可能性があるため、今後そのようなことを想定した訓練などをして、経過を報告してほしい。
- 広域化により河南町の消防本部が分署となり、富田林市が消防本部となるが、災害が発生した場合これまで通りの住民サービスが可能か、それと消防庁舎は富田林に貸与するのか、また今まで培われた消防や消防職員はどうなるのか。
- 委託後も消防隊3人、救急隊3人と河南分署として戦力は変わらず、火災が発生した場合、他の署からの出動もあり初動体制で消防力は向上します。
- 財産の問題について、土地・建物・車両については河南町の財産として古くなれば住民さんのた

めにも更新していき、富田林市に無償で貸与します。人の財産である消防職員については、富田林市に採用してもらいます。

- 下河内まで、これまでは10分程度で救急車が来ていたが、河南分署の救急車が出動していて他から来る場合は、遅くならないのか。現在ある予備車はどうなるのか。
- 緊急出動し、救急発生場所に一番近い場所から出動しますので、最悪の事態でない限り大幅には遅れないと思われます。
- 救急事案が重なった時、他の消防に応援を要請すると時間がかかるため、消防隊が予備車で2件目の救急に対応しています。その場合消防隊員も救急隊員もない状態となるので、昼夜を問わず休みの者を呼び出して火災等に備えます。しかし限界があると思われるので、対策を取るということも含めての今回の広域化です。
予備車として配置しておくが、運用については富田林市と協議中です。
- 河南町消防本部が少人数で発足した時は、色々なことを心配したが、この広域化についての説明を聞いて、町長の放った第一の矢が命中することを願います。